

平成 2 年 7 月 2 2 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

秋の七草私考

山上憶良の「秋の野に咲きたる花を指おりてかき数ふれば七草の花。萩の花、尾花、葛花、撫子の花、女郎花また藤袴、朝顔の花」の歌が有名です。春の七草が無病息災、招福を願って食したのに対し、こちらはその花を愛でるために選ばれました。今でこそ四季を問わず和洋の園芸品種の花々があふれていますが万葉びとはこのような野の花に季節の移ろい、心の安らぎを感じたのでしょう。

◎ はぎ (やまはぎ) マメ科

枝垂れて枝先に穂状につけた花は地味ですが今の人々にもなお親しまれ和風、洋風問わずに庭園に植えられています。

◎ おばな (すすき) イネ科

わが国固有の植物であり、茎は屋根をふいたり、炭俵を編んだり、葉は飼料とされて生活と深い関わりを持ってきました。畑を荒らしておくとな数年のうちにはえてきてやがて、いっぱいになります。

◎ くず マメ科

繁殖力旺盛で好日性のつるは、のさばって、スギ、ヒノキの植林樹はもとより雑木までのつかかって芯をとめてしまうので林業家には敵対視されています。市内でも完全に占領されてしまったところが何か所かあります。しかし、その花は芳香を持ち、根から正真正銘の葛粉がとれます。

◎ なでしこ ナデシコ科

名前のとおり河原や道ばたのような乾燥地に自生します。優しい姿、色香は、かつての日本女性の代名詞でしたが、時移りて今は……？ 野にも街にもめったにお目にかかれなくなりました。

◎ おみなえし オミナエシ科

永山丘陵あたりを歩くと、ごくふつうにあったのですが今ではたいへん少なくなりました。苗を花屋で買って、庭に植えてある家を多く見かけますが肥えた土地では丈が2メートルにもおよび、まったく風情がありません。美しいものは、やはり野に置きたいものです。

◎ ふじばかま キク科

青梅市内付近には自生地はありません。葉を乾燥させると桜餅と同じ香りがあるのでヒヨドリバナと似ていますがこれで区別できます。

◎ ききょう キキョウ科

憶良の歌のアサガオはこの草とされています。花の色、形からナデシコとともに親しまれてきました。6月に咲く園芸種のサミダレギキキョウが主流になって野生のものはこれまたほとんど見かけなくなりました。

(文責 中西 勲)